

2024年5月11日開催用

第349回山口西田読書会（2024年4月13日開催分）の Protokol

小嶋 久之

1. テキスト：「左右田博士に答ふ」
前文と「一」の第1段落、290頁の1行目「哲学研究第二十七号に掲載せられた左右田博士の論文を読み」から293頁の2行目「併し自覚の自覚といふ如きは空虚なる言辭に過ぎない」まで
2. キーワードないしキーセンテンス
「我々の眞の自覚とは如何なるものであるか。自覚は自覚自身の内に深く反省して見なければならぬ、」(292,11-12)
「自覚には深淺と種々の段階とを考へることはできるであらう。併し自覚の自覚といふ如きは空虚なる言辭に過ぎない。(292,15-293,2)
3. 考察及び問い
眞の自覚は、自覚自身の内に深く反省することで到達するものとしているが、自覚には深淺と種々の段階はなく、反省を繰り返すうちに、直ちに眞の自覚に到達するものであり、かつ、それは「絶対無の場所」を自覚することだと、理解をしていいのか。